

戦後日本というアムネジア

“JAPAN'S POST-WAR AMNESIA”

3・11の出来事がわたしたちの日常的な感覚を宙づりにしたと指摘されていますが、問題はもっと遠くまで、つまりわたしたち自身が暗黙のうちに前提としていた戦後像にすら深刻なひびを入れるできごとだったのかもしれない。あえてそのひびのなかに深くわけいって、忘れていることすら忘れている戦後日本の、あるいは戦後東アジアの記憶を取り戻し、再構築する一つの機会を考えました。近年旺盛にそうした見直しの作業を進めていらっしゃる加藤哲郎さんと和田春樹さんのお二人に、まずは基調報告として論点を提示して頂き、戦後日本を書き直すという持続的なプロジェクトを支えてきたアメリカとドイツ、カナダ、オランダ、ブラジル、韓国、中国、日本本土、沖縄の研究者が早稲田大学に集います。

日時 2012年12月20日(木)・21日(金)

場所 早稲田大学戸山キャンパス (文学部) 33-2号館第一会議室

12月20日(木) 午後1時～午後6時 ————— 司会：佐藤泉(青山学院大学)

基調講演 加藤哲郎(早稲田大学)「原爆と原発から見た米国・日本・戦後左翼」

第1セッション

シュテフィ・リヒター (Universität Leipzig) 「福島の後——新しい批評的知識の「場」と実践へ」

柴田優子 (Saint John's University) 「原爆言説の起源と米国」

コメント 小田原琳(東京外国語大学非常勤講師) 申知瑛(一橋大学大学院博士課程)

12月21日(金) 午前10時～午後7時 ————— 司会：渡辺直紀(武蔵大学)

基調講演 和田春樹(東京大学名誉教授)「ある戦後精神の軌跡と現在——戦争と植民地支配をみつめる」

第2セッション

新城郁夫(琉球大学)「『沖縄問題』というブラック・ホール——「復帰」と南方同胞援護会——」

高榮蘭(日本大学)「情動の枠組——ベトナム／レイテ戦記の磁場から——」

コメント 平野克弥(Cornell University) ファン・ジュンリャン(Ph.D. Candidate in Cornell University)

第3セッション

酒井直樹(Cornell University)「アジアの視座：知識の政治と文明論的転移、Theory and Asian Humanityを参照しつつ」

樹本健(University of Oklahoma)「ロマン的イロニーの系譜学：保田與重郎とドイツロマン派」

コメント 石原俊(明治学院大学) 鳥羽耕史(早稲田大学)

総合討論

成田龍一(日本女子大学) 岩崎稔(東京外国語大学) 朴裕河(世宗大学校)

タカシ・フジタニ(University of Toronto) ペドロ・エルバー(Cornell University)

マーティン・ロート(Ph.D. Student in Universiteit Leiden)

主催 科研 「東アジアにおける前期冷戦文化の多角的考察」

科研 「近現代世界の自画像形成に作用する《集合的記憶》の学際的研究」

科研 「1950年代における地域文化活動の実証的研究-民衆の自己教育運動の史資料発掘」

問い合わせ rewriting-jimukyoku@tufs.ac.jp